

京極読書新聞 <第54号>

発行日 平成26年 3月 1日(土)
京極町生涯学習センター湧学館

一年を振り返って

今、平成26年の3月。湧学館事業も21日の「古本市」を残すのみとなり、なんとか、激動の平成25年度を乗り切ることができた安堵感にひたっています。五年前に始まった小・中学校への「出前図書館」。その中から生まれてきた「京極読書新聞」。一回たりとて休むことなく現在も続いている「平家物語」読書会。「後志の文学」読書会が発掘してきた数々の名作と作家たち。そして、それを巡る楽しい「バスの旅」… それら、他の町村には見られない京極町独自の文化が、今年度は一気に花ひらいた年と感じます。

また、今年度は、京極町の読書文化を大いに加速させたものとして、「国策紙芝居」の名をあげねばならないと思います。出前図書館や読書会の場で読み聞かせを行い、ブックトークを行い、「京極読書新聞」で逐次報道してきたことによる町の人たちの反応は、私たちに、町の歴史資料をどう守り、どう活用して行かなければいけないかのヒントをいっぱい与えてくれました。今年度後半、俱知安風土館の応援協力もあって、この京極という町の文化スタイルが広く山麓全体に知れわたる契機になったことをとてもうれしく思います。この方向でまちがっていない…という自信をもらった一年でもありました。(湧学館/新谷保人)



京極読書新聞は
毎月1日発行です。

京極小学校 明村睦子(あけむら ちかこ)

読書と言えば、京極小学校は毎朝朝の会の後に10分間、読書タイムというものがあります。1時間目から落ち着いて学習に入れるように、また、読書の習慣をつけるために、取り組み始めました。各学級には、子どもたちの実態に合わせて様々な本が常時おいてあります。定期的に湧学館から図書の借入と返却を行うことができるので、子どもたちは好きな本をいつでも自由に読むことができます。朝読書の時間が定着し、今ではどの教室もとても静かに読書に集中しています。

また、本との出会いをこちらから仕掛けていく取り組みとして、今年度もブックトークを各学級ごとに行うことにしました。各学級1～2回、学習内容等に応じて本や、ときには紙芝居等を持ってきていただきました。どんな本と出会わせたいか、子どもたちにどんな話をするか、担任と湧学館の方と話し合い、ブックトークの内容を決めていきます。当日は、湧学館の方の話も、持ってきていただいた作品や本も、全て1つの学年で独占できたため、一人一人にとって有意義な読書活動にすることができました。毎回、どの学年の要望にも快く応じてくださり、湧学館の方々には本当に感しております。

いつも思うのですが、京極町には図書が充実した立派な図書館があり、小学校の図書室や教室にも数々の本が並び、京極の子どもたちはたくさんの本に囲まれ、大変よい読書環境にいてうらやましい限りです。

これからも学校と湧学館と連携を取りながら、子どもたちが意欲的に読書活動を行っていただけるように様々な趣向を凝らしながら、取り組んでいきたいと思っています。

南京極小学校 船越俊成(ふなこし としなり)

南京極小学校では毎日の朝読書に加え、今年度から一日10分以上を目標に「家読」にも取り組み始めました。子どもたちは毎日、「次はどの本を読もうかな」と目を輝かせながら様々な本を手にとっています。

そのように読書に親しむ中で、子どもたちが特に楽しみにしているのが毎月の出前図書です。今月はどのような本を紹介してくれるのかと、湧学館の方がいらっしゃるのを心待ちにしています。毎回、その月の行事に関わるユニークな本の紹介に聞き入り、ブックトーク後はすぐに、持ってきてくださったたくさんの本のなかから自分のお気に入りの一冊をさがして、朝読書や家読などで読んでいます。

南京極小学校 出前図書館 第5回
ブックトーク大会



平成25年10月8日(火)



また、今年度も子どもたち自身によるブックトークを実施させていただきました。湧学館の方の本の紹介に続き、子どもたちがそれまでに読んだ本の中から「おすすめの本」を友達と湧学館の方に紹介しました。自分がおもしろいと思ったポイントをわかりやすく伝えたり、他の人にも興味を持ってもらったりできるように、言葉を選び、内容を工夫しながら紹介していました。このブックトークがきっかけとなり、児童会文化部の活動として子どもたちだけのブックトークもひらかれました。ブックトークは、これからもぜひ続けていきたい活動です。

読書は心を豊かにします。これからも子どもたちが本に親しみ、楽しく読書ができるよう、活動の工夫や図書室の環境づくりを子どもとともに進めていきたいと思います。

京極中学校 高橋和香子(たかはし わかこ)

京極中学校の学芸専門委員は皆に本に親しんでもらうため、この1年間、様々な活動に取り組んできました。まずその1つに学級文庫があります。気軽に本を読んでもらえるようアンケートをもとに図書コーナーにある本から30冊ほど選んで各学年の教室に置きま

した。また、11月には図書コーナーの整理もしました。すべての本を一度図書コーナーから出して、カテゴリーごとに入れ直す大がかりな作業でしたが、学芸専門委員や有志の生徒たちの協力のおかげで、予定通り2日間で終わることができました。このように、京極中学校には本に関心を持って活動してくれる生徒たちがいます。

総合的な学習の時間では2年生が湧学館で職場体験をしました。本を気持ちよく読んでもらうためにどのような仕事をするのか、実際に経験できる貴重な2日間となりました。

1年生は湧学館へ職場訪問をし、改めて本を読むことの大切さに気付きました。また、誰に対しても平等に接することが大事という、仕事に向かう姿勢を学びました。生徒の成長に深く関わってくるこのような活動は、今後も続けていきたい学習の1つです。

そして、京極読書新聞には中学生の読書感想文コンクール入賞者へのインタビューが数ヶ月に渡って掲載されました。どのインタビューからも、本からのメッセージを受け止め、自分なりの考えを新たに構築していることがわかりました。

今後も本との出会いを大切に、子どもたちが豊かに成長していけるような活動を地域の方々や生徒たちと協力して推進していきたいと思います。



俱知安風土館／歴史資料が語ること
第2回 宮沢賢治原作「貝の火」

拝見国策紙芝居

— 風土館歴史講座を通じて —

倶知安風土館館長 岡崎毅

風土館の歴史講座も、最終回を残すところとなった。これまでの2回の講座に対し、反響が想像以上に大きい。そうだろう。実に聞き応えのある内容なのだから。

高評価の理由を尋ねると、戦時中のものの教え方や考え方が良く理解できて面白いという感想が多い。明確に使われた状況を再現したり、改ざんされている部分を明確に提示したりすることによって、メッセージがちゃんと伝わるよう講師が内容をしっかりと組み立てていることが大きく効を奏している。

ある来聴者は述べた。例えば桃太郎には超真面目タイプからプレーボーイタイプまで話にヴァリエーションがあり、今はそれぞれを楽しむことができる。しかし、当時は選ぶことができなかった。なぜなら人々を型にはめるために使われたから。そこには被害者を生む構造があると。

個人的には、70年の時空を経て依然として同じ根が今の我々の社会に巣くっていることを講師は上手にえぐり出してくれたと感じている。その一例をあげると、紙芝居の内容に共通する基本倫理として、「家族や友人を含め、周囲の人々に対して正直で誠実であれ」という儒教的教義が濃厚にある。この教義自体は特に奇妙でも悪くもないのだが、それを上部機関が道徳として下達する点に問題がある。特に当時の政府が国民に対して決して正直でも誠実でもなかったことを考え併せると、これらの紙芝居の持つ問いかけは実に大きい。そもそも政府は国民に対して誠実

である必要はないのかどうか、あるいは我々は、国民に対して誠実な政府を望むのかどうか。

ある参加者は、京極町の共有財産を京極町が今後どのように扱うのか注目してゆきたいと言う。一連の紙芝居は、京極町の歴史財産でありながら、その普遍的な価値は町域を越える。このような資料をどう扱ってゆくのか、次の世代にどう伝えて行くのか。普遍的な価値があるからという理由で道や国に移すとなるとすれば、それは地域の文化を中央に丸投げすることに外ならない。だからこそ、京極町の「地域力」に注目したいと。

倶知安風土館 歴史講座のおまけ！
歴史資料が語ること
国策紙芝居を例に！

昨年の春、京極町の民家から歴史資料として第一級の品々が発見されました。明治時代の地味な書物や戦時中の紙芝居など、あふれる社会がみんな歴史を語り、そして生きてきた証です。

今回は、これらの資料の発見にまつ、特に地味な品々の中から、3冊の資料を講師に依頼し、資料の持つ価値や生きた証について、3回シリーズでお話していきます。

国策紙芝居の講演を通じて、ほんの70～80年前の私たちの社会が如何に変わってきたかを、

●日時
第1回：1月25日(土)
国策紙芝居の歴史「千太郎の冒険」(必見！)
第2回：2月16日(日)
国策紙芝居の歴史「国策紙芝居」(必見！)
第3回：3月16日(日)
国策紙芝居の歴史「国策紙芝居」(必見！)

いずれも午後3時～4時半

◆講師：新谷 保人さん
(京極町湧字館副館長)

◆場所：倶知安風土館 2階講演会スペース

◆聴講料：無料

倶知安風土館/倶知安町教育委員会
お問い合わせ：倶知安風土館(京極町北町 5番地7) TEL 0136-22-5621

発行

京極町生涯学習センター湧字館
〒044-0101 京町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

